

カタール（2023 年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在カタール日本国大使館](#)

1. 2021 年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2021 年度日本語教育機関調査結果

機関数	教師数	学習者数								
		合計	初等教育		中等教育		高等教育		その他教育機関	
			人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
4	9	71	0	0.0%	0	0.0%	40	56.3%	31	43.7%

（注）2021 年度日本語教育機関調査は、2021 年 9 月～2022 年 6 月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

液化天然ガス（LNG）輸出大国として急速な経済発展を遂げているカタールでは、「2030 国家ビジョン」の一環として人材育成のための教育が重要なテーマとして掲げられており、カタール財団の教育都市をはじめ、国を挙げて教育に関するさまざまな投資が行われている。海外の教育制度への関心も高く、「伝統と近代化の融合を成し遂げ、勤勉な国民を生んだ国」として、日本の教育制度及び日本語教育への関心も強い。

カタール大学では 2017 年 10 月より社会人向けの夜間日本語講座が開講し、またハマド・ビン・ハリーファ大学でも 2019 年に社会人向け夜間日本語講座が開講した。

背景

カタール人は、日本が第二次世界大戦の敗戦から復興し、自動車をはじめ優れた経済・技術力を有する国となったことにある種の憧憬の念を抱いている。また、日本人は道德観・倫理観の高い国民であるという印象を持っている。

ハマド前首長は首長時代（1995 年～2013 年）に、カタール国民が日本式教育を受けることのできる「日本学校」の設立を自ら強く希望していたが、実現には至らなかった。

特徴

会話及び簡単な読み書きが中心になっているが、時折 IT を用いた日本文化の紹介も行われており、日本文化全般に親しむことを目的とするコースが多い。全体として、初級レベルのコースが中心となっている。

最新動向

2023 年 9 月より新たにアハメド・ビン・ハンバル男子高校での日本語教育も始まった。

教育段階別の状況

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日・カタール外交関係樹立 40 周年（2012 年）の節目に、当地にて第二選択外国語としての日本語教育の試験的導入が開始され、ターリク・ビン・ズィヤード男子高校で長きにわたり日本語教育が行われていた。しかし、近年の教育省による全公立学校の授業カリキュラム統一を意図した制度改革を背景に、教育省から選択外国語科目数削減要請が発出されたことに伴って、同校での日本語教育は 2020 年 9 月に一旦廃止されたものの、2023 年 9 月に再開。

高等教育

カタール大学で 2014 年から選択科目として日本語講座が開設されている。

ハマド・ビン・ハリーファ大学にて 2019 年より社会人向けの夜間日本語講座が開講されている。

学校教育以外

民間語学学校が一堂（ベルリッツ）存在する。

3. 教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

6-3-3 制。

教育行政

Ministry of Education and Higher Education（教育省）が管轄。

言語事情

アラビア語が公用語だが、人口の9割が外国人ということもあり英語が広く通用する。

外国語教育

英語が主流。選択授業としてフランス語、スペイン語などの教育が行われている。

外国語の中での日本語の人気

学習者の多くは、日本のアニメ、ゲームなどポップカルチャーの影響を受けていて、最近では旅行先として日本に興味をもち、趣味として日本語を学習している人が増加傾向にある。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

4. 学習環境

教材

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

ターリク・ビン・ズィヤード男子高校及びアハメド・ビン・ハンバル男子高校では、講師自らが教材を用意したり、日本からの教材を利用。

学校教育以外

『みんなの日本語』スリーエーネットワーク（スリーエーネットワーク）を基本とし、講師が自ら作成。その他、民間語学学校（ベルリッツ）が独自に利用している教材がある。

IT・視聴覚機材

学校やコースには参加せずに、携帯のアプリやユーチューブなどインターネットを活用して独自に勉強している人が多い。

5. 教師

資格要件

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

大学学士以上を保持しており、日本語教育の経験があることが必須。

高等教育

カタール大学及びハマド・ビン・ハリーファ大学で教える教師は、最低でも修士号を保持していることが必須。

学校教育以外

民間語学学校（ベルリッツ）では日本人教師が日本語を教えている。

日本語教師養成機関（プログラム）

日本語教師養成を行っている機関、プログラムは確認されていない。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

2023 年 1 月現在、日本人日本語教師はカタール大学に 1 名、民間語学学校（ベルリッツ）に 1 名それぞれ在籍している。また、個人で日本語を自宅などで教えている人も数名いる。私立公立問わず日本人講師のニーズは常に高く、需要は大変大きい。

教師研修

現職の日本語教師対象の研修は確認されていない。

6. 教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

「カタール日本語教師会（JALTAQ）」（2010 年設立）

日本語教師のみならず、日本語教育に関心がある在留邦人や、日本や日本文化を発信していくことに関心のあるメンバーを中心に活動中。また、カタールでは日本語教師の不足も課題となっているため、日本語教育への関心がある人を対象とした勉強会の開催や情報交換を行っている。2024 年 1 月現在の会員数は 3 名（この他賛助会員が 1 名）。

2009 年より在カタール大使館とカタール日本語教師会が共催で日本語スピーチコンテストを年一回開催している（当初は日本人学校にて、2016 年よりカタール大学を使用。2022 年は在カタール大使館で実施）。

その他、カタール日本語教師会は日本語で会話をを行う「話そう会」を不定期に実施していたが、カタール国内

での新型コロナウイルスの蔓延を受け、全イベントが開催中止した。「話そう会」については教師不足により継続的な活動が危ぶまれることから 2024 年 4 月より在カタール大使館が引継ぎ実施していく予定。

最新動向

会員数の減少に伴い閉会を検討中。

[教師会・学会一覧へ](#)

7.日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

国際協力機構（JICA）からの派遣

JF、JICA からの派遣は行われていない。

その他からの派遣

その他からの派遣は確認されていない。

8.シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

9.評価・試験

2018 年に湾岸地域で初となる日本語能力試験が当地で実施された。それ以降、当地での日本語能力試験は毎年カタール大学で実施されている。

10.日本語教育略史

2006 年

カタール教育省附属語学教育センター成人向け講座開始、アル・バヤーン女子学校にて日本語講座開始

2009 年

アル・バヤーン女子学校日本語コース中止

2010 年 7 月

カタール教育省附属語学教育センター閉校

2010 年 9 月

カタール安全保障国際アカデミー（内務省付属）「Qatar International Academy for Security Studies ; QIASS」開校

2011 年 3 月	Qatar Eastern Language Center 開校
2012 年 9 月	ターリク・ビン・ズィヤード男子高校にて日本語学習が開始
2013 年 6 月	Qatar Eastern Language Center 閉校
2014 年 9 月	カタール大学にて日本語講座が開設
2016 年 12 月	カタール安全保障国際アカデミー（内務省付属）「Qatar International Academy for Security Studies ; QIASS」閉校
2017 年	ハングル日本語センター開校
2017 年 10 月	カタール大学にて社会人向けの夜間日本語講座が開講
2018 年 12 月	カタール大学にて湾岸初の JLPT 開催
2019 年 8 月	ハマド・ビン・ハリーファ大学にて社会人向けの夜間日本語講座が開講
2020 年 6 月	ターリク・ビン・ズィヤード男子高校にて副専攻だった日本語学習が教育省の指示で閉講
2021 年	ハングル日本語センター閉校
2023 年 9 月	ターリク・ビン・ズィヤード男子高校での日本語学習が再開 アハメド・ビン・ハンバル男子高校での日本語学習が開始